



野口幽香賞 募集要項



● 主 旨

社会福祉法人二葉保育園（以下「法人」とする）は創設者、野口幽香の偉業を顕彰し、その理念と実践がながく後世に継承されることを祈念し、創立120周年を記念して「野口幽香賞」を創設しました。

広く児童福祉事業等で顕著な活動をしている個人または団体を顕彰します。

● 対 象

乳幼児とその家族の福祉増進に貢献する実践及び調査・研究をしている、団体もしくは個人とします。

● 賞

「野口幽香賞」賞状

副賞：50万円、記念品

● 応募方法

応募期間 2019年5月1日から2019年10月31日

提出書類 以下の必要書類を郵便（簡易書留）にて事務局に提出してください。

応募は自薦、他薦を問いません。

● 野口幽香賞申請書

※社会福祉法人二葉保育園のホームページ参照

- 受賞となると思われる関連の資料
- 団体の場合は団体の概要がわかる書類

なお、提出された書類は選考目的以外に使用することはありません。また、書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。

● 選考方法と結果通知

外部有識者を含む選考委員会により、公正かつ適正に選考します。選考結果は12月初めに通知し、受賞団体又は個人は2020年2月1日（土）社会福祉法人二葉保育園創立120年記念式典にて賞状を授与いたします。詳細は後日通知いたします。

選考された団体名又は個人名、及び選考理由は、本法人のホームページ等において公表することをご了承ください。

● 提出先・問い合わせ先

社会福祉法人二葉保育園 法人事務局（平日10:00～16:30）

〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

TEL 03-3341-1205 FAX 03-5368-1969

e-mail: info@futaba-yuka.or.jp



野口幽香の生涯とそのはたらき

野口幽香（ゆか）は1866（慶応2）年2月1日、明治維新の動乱期、兵庫県姫路市で生まれた。新しい時代を前向きに生きた父と、明るくおおらかな母は、娘が広く知識を吸収し学問することを望んだ。小学校卒業後は男子ばかりの姫路中学校に進学したが継続できず中退、19歳で東京女子師範学校（後、東京女子高等師範学校）に入学した。学校の寄宿舎で同室の上級生尾藤初子は幽香に「東洋のフレイベルになる」という夢を語り、これが幽香の将来を決めた。

幽香は在学中父と母を相次いで亡くした。失意の彼女は級友に誘われキリスト教会に通うようになり、23歳のとき洗礼を受け、熱心なクリスチャンとして生きる事となる。

1890（明治23）年、東京女子高等師範学校を卒業した幽香は、母校の附属幼稚園に勤務したが、4年後、華族女学校（後、学習院女学部）に幼稚園が創設されるにともない転任し、以後長く勤務することとなる。華族女学校幼稚園の同僚、森島峰は米国で貧民幼稚園について学んだ人であった。二人は麹町に住まい、永田町の華族女学校幼稚園に通った。通勤の途中、朝も夕も往来に放任された貧しい家の子どもの姿をみかけ、この子たちにこそ幼稚園が必要だ、自分たちの手で幼稚園をつくらうと夢が膨らんだ。

番町教会の宣教師ミス・デントンの協力も得て、慈善音楽会を開催して開設資金を準備し、1900（明治30）年1月、麹町下六番町（現在の千代田区六番町）に小さな家を借りて、6人の子どもを集めて幼稚園を始めた。

麹町の借家でスタートした後、二度の移転を経て、1906（明治39）年3月、当時貧困者が多数居住していた四谷鮫ヶ橋（現在の新宿区南元町）に園舎を新築しここで本格的な社会事業の幼稚園の実践が展開された。

二葉は幼児の保育だけでなく、貧困ゆえに学校に行けない子どもを受け入れる事業、幼い子どもをかかえて困窮する母子のための「母の家」等々、時代の必要に応じて多様な取り組みがなされた。明治末には内務省の救済事業施策として注目・評価され助成金も受けるようになった。1916（大正5）年、社会事業に転換し、名称も「二葉保育園」と改めた。

幽香は日本の近代化における幼児教育、特に貧民のための幼児の教育と生活を守るためのこれらの事業の中心的な担い手であり、指導者であった。幽香の生涯はキリスト教精神に貫かれ、その事業は一人ひとりの子ども、親を大切にすらしに満ちたものであった。この実践は今も二葉に継承され、枝葉となって茂み続けている。幽香は1950（昭和25）年、84歳で天に召された。

二葉保育園のあゆみ



1960年代の保育園での運動会

- 明治33(1900) 野口幽香、森島（斎藤）峰が私立二葉幼稚園を東京麹町に設立。
- 大正5(1916) 二葉保育園に改称。新宿に旭町分園（二葉くすのき保育園の前身）開く（園児100名）。
- 昭和10(1935) 財団法人となる。理事長に徳永恕就任。深川海辺町母子寮を設置（65世帯）。
- 昭和20(1945) 東京大空襲で深川母の家が焼失し21人死亡。本園も被災し旭町分園のみ残る。
- 昭和21(1946) 旭町分園中心に事業を再開し、乳児部も開始（二葉乳児院の前進）。
- 昭和22(1947) 調布市上石原に分園設立。母子寮と養護部（二葉学園の前身）を置く。
- 昭和25(1950) 南元本園再開（保育園43人、乳児院15人、母

子寮10世帯）。

- 昭和26(1951) 上石原分園焼失、再建（母子寮をやめ、養護部50人）。
- 昭和31(1956) 南元本園に母子授産の家開設。38年廃止。
- 昭和39(1964) 社会福祉法人になる。
- 昭和43(1968) 上石原分園を改築し、養護部を二葉学園と改称。
- 昭和52(1977) 旭町分園を調布市国領町に移転し、二葉くすのき保育園として発足（園児100人）。
- 昭和56(1981) グループホームの試行を始める。
- 昭和61(1986) 二葉乳児院養育家庭センター開設。平成14年閉鎖。
- 平成12(2000) 二葉乳児院で新宿区の子どもショートステイ事業開始。
- 平成15(2003) 二葉学園で狛江市の子どもショートステイ事業を開始。地域小規模児童養護施設開始（定員6名）。二葉乳児院で新宿区の地域子育て支援センター事業を開始。
- 平成22(2010) 二葉むさしが丘学園、東京都より移譲し運営を開始。
- 平成25(2013) 二葉学園、本園改築。
- 平成26(2014) 二葉南元保育園改築。
- 平成28(2016) 自立援助ホームトリノス開設。
二葉むさしが丘学園改築。



現在の二葉南元保育園の建物

社会福祉法人 二葉保育園 施設紹介

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
TEL：03-3341-1205 / FAX：03-5368-1969

地域子育て支援センター二葉

住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
TEL：03-5363-2170 / FAX：03-3359-4596

二葉南元保育園

住所 本園：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
TEL：03-3351-3819 / FAX：03-3357-3707

二葉くすのき保育園

住所：〒182-0022
東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号
TEL：042-487-8309 / FAX：042-487-8326

二葉乳児院

住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
TEL：03-3359-4578 / FAX：03-3359-4596

二葉学園（児童養護施設）

住所 本園：〒182-0035
東京都調布市上石原2-17-7
TEL：042-482-2578 / FAX：042-480-5200

二葉むさしが丘学園（児童養護施設）

住所 本園：〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1
TEL：042-344-9911 / FAX：042-345-7836

自立援助ホーム トリノス

住所：〒191-0021 東京都日野市石田1-28-10
TEL：042-586-0005 / FAX：042-586-0041